

《令和六年度暗唱⑤》

忘れもの

高田敏子

入道雲にゆうどうぐもにのって

夏休みなつやすはいつてしまった

「サヨナラ」のかわりに

素晴らしい夕立ゆうだちをふりまいて

けさ 空そらはまっさお

木々の葉はの一枚一枚いちまいいちまいが

あたらしい光ひかりとあいさつをかわしている

だがキミ！ 夏休みなつやすよ

もう一度いちどもどってこないかな

忘れものわすをとりにさ

迷い子まよごのセミ

さびしそうな麦むぎわら帽子ぼうし

それから ぼくの耳みみに

くっついて 離れない波なみの音おと

